編集後記

『境界を越えて――比較文明学の現在』第17号をお届けする．

今号には，論文3点（うち教員寄稿2点），優秀修士論文1点，研究交流会の記録2点の掲載となった．

教員寄稿のうち1点は，今年度で定年退職を迎えられる阿部珠理先生に特にお願いした．佐々木一也先生による紹介文にもあるとおり，現在の大学院所属は社会学研究科だが，われわれ比較文明学専攻の創設メンバーでもある．異文明の接触・摂取のあり方にかかわる興趣尽きないご論考を賜ったことに深く感謝申し上げる．

投稿が論文1点にとどまったことには，寂しい印象を受けた．会員の方々には，最も身近な論文発表の場として大いに活用してほしい．大学院生にとっては，査読委員や編集者とのやり取りを通じて，学術成果発表の仕組みや決まり事を学習するよい機会でもある．従来からあまり徹底されていないルールの一例を挙げれば，修正意見への対応のために加筆する場合も，当初の字数制限の範囲内で行わねばならない．とかく，言いたいことを十分に伝えたいという意欲のほうが上回りがちであるが，全体の字数制限に服するためにバランスを取る作業は，著者としての問題把握を一歩引いた観点から見直すという意味で大変意義があるはずである．

上記のこととも関連して1点．今回，投稿規定の修正がある．字数超過を予想しての文言を削除した．次号の投稿より適用となる．従来以上に，投稿規定・執筆要項の遵守をお願いしたい．

最後になったが，今号の編集についても深澤晃平氏・長田年伸氏にたいへんお世話になった．心よりお礼申し上げる．

2017年2月

林文孝